



**す ま い る**  
園小中 箱根教育合言葉 「箱根を愛し、かしこく、やさしく、たくましく」



子ども達は、日々いろいろなことに興味を持ち保育者に発信してきます。私達保育者は、その興味に耳を傾け、一緒に楽しみ、不思議に思ったり、考えたり、一人の興味を友達へ橋渡しをしたりしながら、広げていきます。ウクライナの戦争、外国の踊り、国旗への興味、そしてお土産の外国のお菓子。そんなことが結びついて、金子湊君のお父様に「ヨルダンのお話会」をしていただきました。パソコンを使っての映像と湊君のお父様の穏やかな語り口調に、子ども達は楽しみながら話を聞きます。『ヨルダンの旗はどれだ?』『知ってるよ。レバノンもわかるよ。』『ヨルダンはアラビア語。こんにちはは、アッサラームって言うんだよ。』『アッサラーム、アライグマ(クム)!パパが言った』『すごいな。よく知っているね。』グーグルアースを使って自分達の箱根地域から一気にヨルダンまで。緑がなく、茶色になっていることに気付く「砂だからだね。」と。私達が想像した以上に色々なことに気付いていきます。ICTの活用は、保育者も参考になりました。『日本からヨルダンまでどれくらいかかると思う?』『111日かな?』『歩いたらそのくらいかかるかな』『う〜ん。30秒くらい』『ロケットに乗ったらそのくらいかもね』子どものどんな答えも否定せず、子どもたちの想像は広がっていきます。「韓国と日本は近いけど…」自分の知っている知識と新しい情報を比べて考えていきます。色々な人種がいること、遺産、言葉、食べ物…。決して「こうだ」と教え込むのではなく子どもの感じる気持ちを大事に話してくださいました。お話の後は、ヨルダンの食べ物です。焼きナスをペースト状にしてヨーグルトなどを入れた食べ物。いつもと違うナイフを使わせてもらい、焚火をして調理です。焚火は、以前行なったゴールドウインでの経験が役に立ちました。「初めは、杉の葉だよ。次に小枝。」友達同士で伝え合いながら探します。そしてそれらが園庭のどこにあるのかもちゃんとわかっているのです。後日読み聞かせに来てくださったボランティアさんに「アラビア語で言おう。シュ克蘭(ありがとう)」ボランティアさんも『シュ克蘭』と返してくれます。「知っている」ということをどう活用していくかが大切です。毎日の生活や遊びと経験が積み重なり、確かなものになっていき、子どもの心の財産になっていきます。小さな園ですが、子ども達の体験は色々な方に支えられて豊かだと感じています。



10月8日(土)は、箱根の森小学校の運動会でした。新型コロナ感染予防のため、今まで出来なかった5歳児と5年生の交流競技を行うことが出来ました。5年生の自己紹介写真を見ながら、誰と同じチームになるのかを楽しみにし、当日は、少し緊張をしながら「台風の目」に参加。一緒に走ったお姉さんの名前を覚えて帰ってきました。引率した職員も1年生から6年生までの徒競走や表現を久しぶりに見て、それぞれの成長を感じました。競技の隙間に、小学校の先生と言葉を交わすこともでき、子どもを中心に置いて、声を掛け合えることは、一貫教育の積み重ねの一つになると感じました。

10月19日(水)は、4園年長児の5歳児交流で、やすらぎの森で遊びました。久しぶりに集まる子ども達ですが、名前を覚え声を掛け合ったり、みんなでしっぽとりゲームをしたりと、たくさん身体を動かしながら、自然に親しんできました。なかなか虫を見つけられない友だちにコオロギを取ってあげる姿や「こんなにきれいな葉っぱを見つけたよ。」と見せ合う姿がみられ、自然物を通して関わりが深まってきました。

これからも、小学校、他園との交流を重ねて箱根教育を推進していきたいと思えます。

1学期は園庭で、今回はビジターセンターに出向いて、指導員の方と自然観察を楽しみました。桃源台港に着くと、指導員の方が出迎えてくれ『なんじゃこりゃ!!』というものを見つけたら、教えてくださいね』と、一言。ビジターセンターへの道のり、普通に歩けば10分くらいで十分な所を子ども達の興味に付き合いながら進んでいくので1時間かかってしまい、指導員さんの予定とは違ったようでしたが、子どものその様子を喜んでくださっていました。『これは何でしょう?匂いを嗅いでごらん?』『あつ、くろもじだ、いいにおい』『ザトウムシいたよ。かわいい。』『私も触ってみたい』『この花なあに?』『そういう時は、まずは匂いを嗅いでみてください』と自然との関わり方を教えてくれます。ビジターセンター内の木に、クマの深い爪痕のようなものを見つけました。その後、指導員さんが調べて連絡をくださいましたが、鹿の角の痕だったようです。クマの爪痕は上から下へ。鹿の角痕は、下から上へつくようです。そのことを子ども達に伝えると「どうして?調べてみようよ」と。それって本当?どうしてそう言えるの?できるだけ、根拠や理由を問う思考(Critical Thinking)は、とても大事な姿勢です。子ども達の心と体と頭はいつもフル回転です。